

歴史的街並みを活用した都市再生に関する一考察

足利工業大学大学院 学生会員 ○中尾 太樹
足利工業大学工学部 正会員 為国 孝敏

1. はじめに

街並みは歴史の積み重ねの中で、様々な要因でその様相を変化させていく。すなわち、歴史的観点から街並みの変容を考察すると、その地域性が明らかとなり、今後の変容への示唆が得られる。

そこで本研究は、群馬県桐生市本町通り（本町1～6丁目）を対象地域として、本町通りの成立と変遷を整理し、その歴史性・文化性を把握することで、歴史的な街並みを活用した都市再生のあり方について考察することを目的とする。

群馬県桐生市は、栃木県に隣接し、両毛地域の拠点都市の一つである。また、「東の桐生、西の西陣」と称され、織物のまちとしても知られている。



図1 桐生本町（桐生市史を加筆）

2. 研究方法

- 1) 図1に示す桐生市本町通りの成立過程を歴史的資料または文献を用い、把握する。
- 2) 江戸時代における本町通りの変遷を整理し、その形成過程を把握する。
- 3) 本町通りの街並みを形成した建物を整理し、その機能・構造を把握する。

3. 研究結果

(1) 桐生市本町通りの成立過程

天正18年（1590）、徳川家康の関東入国と同時に桐生領（旧由良氏領）は徳川氏領となり、桐生川西岸の扇状地上、荒戸村、久方村の一部に旧桐生城下に代わる新町が形成された。

天正19年（1591）、徳川氏代官・大久保長安の手代・大野八右衛門によって、町割が着手された。また、同年に遷座された桐生天満宮を宿頭として、南北15町50間を町人地とし、円満寺北の丘陵を削平して陣屋を構え、町人地との間に1町32間の横町（現在：横山町）をつくり、御陣屋へ向う通路とした（図2）。

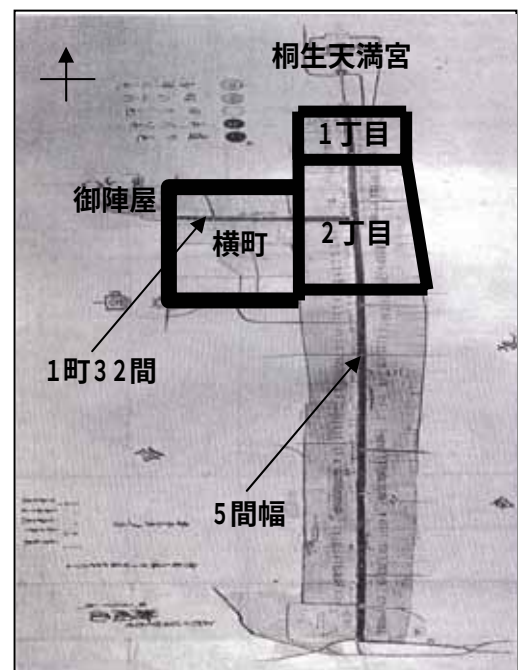


図2 1. 2丁目の形成図（桐生市史を加筆）

慶長10年（1605）、雉子ノ尾を基点として南へ11町余、下瀬堀までの街並みを整え、3丁目・4丁目・5丁目・6丁目とした。そして、通路西側の用水路を下瀬堀まで開削した。また、この時、新宿村から、5丁目へ天台宗長福寺、6丁目へ浄土宗浄運寺を移

キーワード 歴史的街並み, 都市再生, 街並みの変遷

連絡先 〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 足利工業大学 TEL0284-62-0609

転している（図3）。また、街並みが成立してから、年1回桐生天満宮を中心として酉の市が開かれ、当初は雑穀・野菜・魚介類・雑貨品・小間物・衣類などの日用品の交易が主であったが、やがて付近の養蚕地帯を後背地として繭・生糸・絹織物の取引が行われるようになった。そこで、絹織物の取引が行われる六斉市に対応し、3丁目、1丁目、5丁目、4丁目、2丁目、6丁目の順に「市廻り」がなされた。

江戸時代の支配形態は、幕領→館林藩領（寛文元、1661～）→旗本領（天和2年、1682～）→幕領（寛保2、1742～）→旗本領（宝暦12、1762～）→出羽松山藩領（安永8、1779～）と変遷した。

（2）本町通りの街並み構成

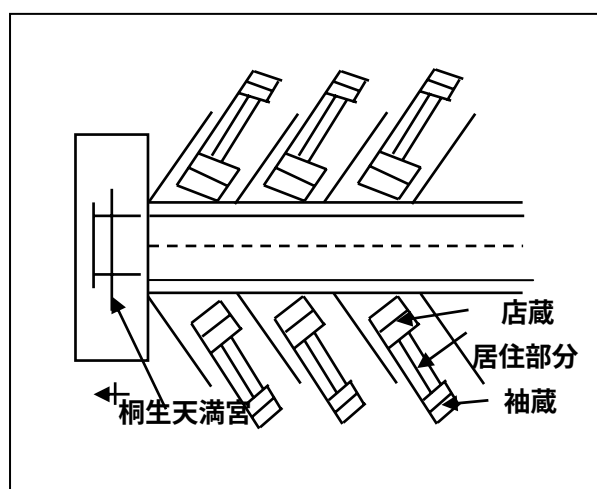


図4 桐生本町模式構成図

本町通りの街並み構成は、次のとおりである。図4より、本町通りの町屋は、店蔵、居住部分、袖蔵の構造となっている。また、町屋の他には、母屋、土蔵、鋸屋根工場などの建築物が多数現存する。建築物が多様である理由は、織物産業が盛んであるからである。さらには、桐生天満宮へ向うのに対して、お出迎えの角度を有しているのが特徴である。これは、一軒一軒の町屋が、我々人間に対して、お辞儀をしているという形である。こうした街並み構成は現在でもその名残をみることができる。

4. 考察

現在の桐生市本町通りは、近世、天満宮の遷座とともに町割りが形成されたことに端を発することは良く知られている。ここに、明治以後は織物工場等

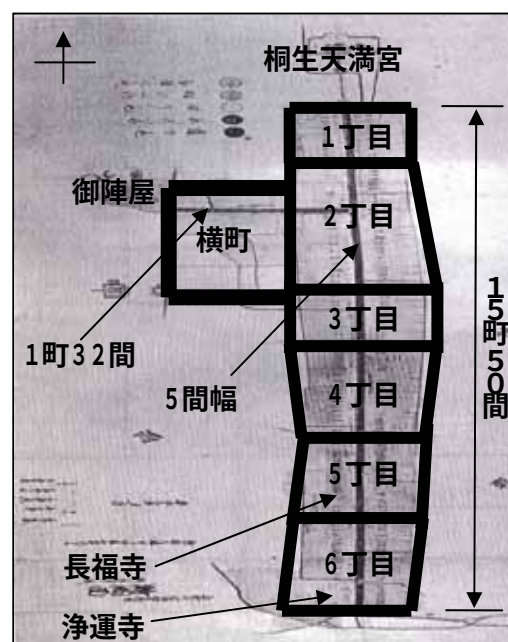


図3 3～6丁目の形成図（桐生市史を加筆）

の近代産業が進出し商業が発展してきた。こうした歴史の積み重ねで、本町通りは、戦後の産業構造の変化やモータリゼーションの発達により、再生方針が必要な地域となってきた。

本研究では、この本町通りを再生させるための方向性を検討するために、歴史性に着目し、これを都市形成史の観点から整理・分析を行った。

その結果、本町通りの成立過程と江戸時代の変遷については、整理することができた。また、街並み形成時の町屋の構造が本町通り、及びランドマークとしての天満宮の位置付けと深く関わっていることが確認できた。

一方、歴史性を都市再生に組み込む必要性は認識できるものの、具体的な方向性を見出すためには近代の都市形成を分析することが必要である。さらに、それらを今日的視点から評価することで歴史的街並みを活用した都市再生へのシナリオづくりが可能であると考え。

・参考文献

- 1) 桐生市史編纂委員会：「桐生市史」上・中巻 桐生市史刊行委員会 1958
- 2) 伝統的建造物群保存対策調査会：「桐生本町の町並み」桐生市教育委員会 1994.3
- 3) 国立歴史民俗博物館：「国立歴史民俗博物館研究報告」第95集 国立歴史民俗博物館 2002.3